

平成27年度 定期総会 開催

5月24日、狭山市立富士見集会所にて文団連の定期総会が開催されました。

岸野智子常任理事の司会で始まった総会は、能川副会長による開会の辞の後、横山会長から「東日本大震災など様々な自然災害を受けた時に、人々を癒したのは文化・芸術でした。そしてそれらは大切なもの。このような大切なものを次世代に引き継いでいきたいと思えます」との挨拶がありました。

来賓の仲川幸成狭山市長は「戦後厳しく苦しい時代に『心に太陽を口びるに歌を』という言葉がありました。希望を持ってやっていく文化性が大切なことであると



仲川市長のご挨拶

つくづく実感しています。文化性の高い街を次世代に受け継いでいきたい。皆が知りたいものを掘り起す人に今後もなっていただきたい」と述べられ、続いて磯野和夫 狭山市議会議長は自らの体験を例に挙げ、「6年前に中国から二胡を奏でる50人ほどの高校生が来日、文理高校との交流があったが、母国語は通じないので英語にてコミュニケーションをとり、にわか合同演奏を始めるなど、素晴らしい交流活動に感動した。文化の力は素晴らしく、また大切なものであると思った」と話されました。同じく来賓の松本晴夫教育長は、青少年文化体験フェスタや市民芸術祭を例に挙げ、文団連が文化の発展に尽力していることへの期待を述べられました。



横山会長の挨拶

定足数46人に対し、出席・委任合わせて63人で総会は成立。広沢常任理事を議長に選出して議事に入り、平成26年度の事業報告と決算報告、新年度役員・監査・顧問人事(下記)、並びに、平成27年度の事業計画案と予算案を審議・承認しました。最後に板屋副会長の閉会の挨拶で平成27年度の定期総会は無事に幕を閉じました。

今年度は、日頃自主事業でお世話になっている、狭山商工会議所専務理事 山田辰夫氏、狭山市市民会館 加藤孝男館長、および狭山市PTA連合会 木口 亨会長にも来賓としてお越しいただきました。また、生涯学習部 小澤一巳部長、および社会教育課 大寺宏之課長には最後まで臨席していただきました。お忙しい中参加くださいました来賓の皆様にご挨拶申し上げます。

(事務局 小川)

●平成27・28年度役員・監査・顧問

会長：横山美衣
副会長：板屋捷子・岸野智子
会計長：張替絹子
事務局長：小川忠史
常任理事：五十嵐牧子・板倉 巧
中村伶華・能川堅弥
藤寿紫峰
監査：栗原梅次・華野 新
顧問：大野松茂・小高誠太郎

●事務局主要メンバー

事務局次長：野本照子
書記：竹迫ミナミ
庶務：角川照江・五十嵐牧子(兼)
会報リーダー：高沢正夫
渉外リーダー：中村伶華
広報リーダー：高橋登希子

●平成27年度文団連基本方針

文化活動団体を支援することによって生き生きとした文化人が狭山にあふれる事を目標とする。また各団体の協働し、狭山市が優れた文化都市になることを目指す。